

皆様こんにちは。毎年恒例になっております、この青少年研修センターでの研修会は、石川県少子化対策監室主催、白山市・野々市市学校図書館を考える会と石川・学校図書館を考える会の共催で行っています。

「石川・学校図書館を考える会」は2月に会報70号を発行しましたが、それをもって会報は最終とし、今後はHPと年に一度のこの研修会を中心とした活動に切り替えることにいたしました。一つの区切りとして、会の初心をもう一度思い起こし、また、会の発足時には0だった県内公立小中学校の学校図書館の“人”が197人にまで広がってきた、そのごく初めのころのことをお伝えすることも大事と思ってお時間をいただきます。どうぞよろしく願いいたします。

お手元の資料をご覧ください。「石川・学校図書館を考える会2016」左には会の願いが書いてあります。真ん中の表は今年度の県内の配置状況です。右は毎年増えてきた人数の記録です。裏面をご覧ください。これは今年度、地域担当の方から寄せていただいた地域からの一言です。◇が付いているのは、全文を載せきれなかったものです。今、会では新しいHPを作成中ですが、そこには全文を載せていますので是非続きはそでご覧いただければと思います。

二つ目に冊子がございます。これは2002年の全国生涯学習フェスティバルで行った「子ども・読書シンポジウム」の記録をまとめたものです。P78には当日採択した「私たちの願い」も載せています。これも是非ご一読いただければと思います。

A4の半分の大きさの紙のものは、研修会終了後の講師を囲んでの2次会のお知らせです。どなたでもお気軽にご参加ください。申し込みは3時15分までをお願いいたします。

A4のレジメは私のメモです。裏面をご覧ください。これは今までの古いHPからとってきたもので、会のごく始まりの記録です。

さて、そこにも書いてありますが、私たちの会のはじまりは、文庫やおはなしの会で子どもと本を結ぶことに心を砕いてきた母親たちの思いからでした。楽しくて豊かな本の世界を子どもたちに！と願っていた私たちがはじめて学校図書館に出会ったのは、岡山の学校司書の方たちが制作されたビデオ『本があって人がいて』でした。若き日の梅本さんも出演していらっしゃるのですが、ビデオの中の学校図書館には、いつでも学校司書という専門の人がいて、子どもたちの読みたい・知りたいに日々応えてくれている。先生方の授業を支える多様な資料も提供している。・・・自分たちの子どもの通う学校図書館とのあまりの差に、私たちは愕然としました。同じ日本の中なのにこの差は何だろうと怒りさえ覚ええました。

文庫と学校図書館との大きな違いは、すべての子にその場が保証されているということです。楽しくて豊かな本の世界に自由に出会うこと、知りたい情報にたどり着く方法を学ぶこと、はどの子にもみな保証されるべきことです。そして、すべての子がそのように育つのでなければ、我が子だけの幸せもありえなのだとすることもわかりました。たとえ我が子をどれほど優しく賢く育てたとしても、社会全体の平和がなければその子の幸せもな

いからです。

そのころ、珠洲では原子力発電所の建設計画が問題になっていました。子どもたちの幸せを考えると、この問題を考える方が先なのではなかろうかと思うことがありました。けれどもそうではなく、学校図書館のことは、原発をどうしていくのかを考えられる子どもを育てることなのだということも分かりました。

皆で会を作り、学べば学ぶほど、何度も目から鱗の落ちる思いをしました。学習会や講演会を開き、たくさんの講師の方に来ていただき、教えていただきました。学校見学にもいきました。95年に小松市に一人の学校司書が県内で初めて配置されたのですが、それは石川県の学校図書館にとってとても大きなことだったと思います。小松に見学に行き、実際に学校図書館に列を作って集まる子どもたちを目の当たりにしたことで、皆の思いは一気に強まりました。それからというもの、見たり学んだりしたことをその都度会報にして、できるだけ多くの人に伝えようと思いました。「県内のすべての子どもたちに専門の人がいて日常に機能する学校図書館を！」という願いをもって、教育委員会を訪問し、図書館大会や学校図書館大会にも参加しました。あちこちでビデオの上映会もしました。

今、県内では19の市町のすべてで、何らかの形で各自治体予算での人の配置が始まっています。先程の表を見て下さればわかるのですが、毎年その数は増え続けています。私たちの願いを受け止めて下さり、厳しい財政事情の中から配置を進めてきてくださった各教育委員会に心より感謝したいと思います。

また、人気のない学校図書館に一人で入り、掃除するところから始められた学校司書の方たちはどれほど大変だったかと思います。今も兼務で働き、雇用止めの心配をされている方も多く、まだまだ様々な課題があります。けれども、皆さんの頑張りで子どもたちが変わり、それを見たことでまた配置が進みました。輪島では中学校の校長先生が学校見学をされたことがきっかけで配置が始まったと聞いています。

それぞれの町でも、自分たちの町の子どもの育ちのために、学校司書のいる図書館を！とたくさんの方が上がりました。「加賀・江沼子どもと本を結ぶ会」／小松市「図書館友の会」／辰口町「おはなしの家」／石川・松任「スバルの会」／「図書館フレンズ鶴来」／野々市の読み聞かせボランティア「おはなしのゆりかご」／「金沢に豊かな学校図書館を願うボランティアネットワーク」／津幡町・かほく市・内灘町「図書館だいすき！わたしとあそんで」／七尾市のPTA／珠洲市・能登町「図書館だいすき！わたしとあそんで・すずのと」／等々、それぞれの町のたくさんの市民が自分たちのできるやり方で、子どもたちのためにと声をあげました。

市の方針、現場の頑張り、市民の応援、この三つのどれもがなくてはならないものだったと思います。

これからのことを考えますと、この三者が自由に一緒に学ぶ今日の研修会のような場があることはつくづく幸せなことだと思います。主催である少子化対策監室には心から感謝申し上げます。年に一度のこの会は、これからもぜひ続けていきたいと願っています。会

の活動としてはもう一つ、年度初めに各教育委員会にお願いしている学校図書館職員アンケートも続けたいと思っています。結果のまとめは HP と「石川・学校図書館を考える会 20〇〇」としてまとめたいと思っています。各地域の市民の皆さん、年に一度は教育委員会に出向き、学校図書館頑張ってください！と伝え、応援を続けましょう。

様々な心配や悩み、困難はあるけれども、今日の会の、「11人の司書によるフラッシュプレゼン」は会の始まりには考えられなかったことです。配置された学校司書一人一人の後ろにあるたくさんの子どもの笑顔と育ちを希望として、これからもそれぞれの立場で力を合わせていけたらと思います。

最後になりましたが、講師のお二人をご紹介します。

梅本さんは、先程も申しましたが、会の始まりからご縁があり、毎月発行の『ぱっちわーく』で、私たちに学校図書館について考える材料を提供し続けてくださっています。また、現在、日本図書館協会の司書養成を考えるプロジェクトにもかかわっておられます。現在の問題点と、これからの考えるうえで重要なお話をうかがえることと思います。

中條さんは、長く現場で図書館情報教育にかかわってこられ、今年 3 月に校長を退職されました。この研修会ではおなじみのまとめ役であり、私たちの会の世話人でもあります。ずっと図書館にかかわってきた彼女の思いや実践を皆で共有し、これからへの力にしたいと思っています。

お二人の講師の方、司書の皆さん、どうぞよろしく願いいたします。